

そのまま、鹿児島本線の終着駅である門司港駅を目指した。

門司港駅では短い乗り継ぎ時間を利用して“0マイル標”で記念の写真を撮り、旅もゼロからの再出発と気持ちを新たにするのであった。

しかし、旅はもう4,400マイルも走っていることに気が付いた。

この門司港駅は日本で唯一、重要文化財に指定されている駅で、かつては九州の玄関駅であった。関門トンネルが開通すると、旧駅名の大里(だいら)駅から門司駅に代理ではなく文字通りに門司駅になり正に、文字通りに「九州の玄関口」になった。

当初の予定はこの門司港駅の近くのホテルを利用することにしていたが、料金がバカ高く門司高駅と“文字通り高かった”と考えながら、再び鹿児島本線に乗り博多駅に戻る。

“聞いて極楽、見て地獄”のように、“来て小倉、見るだけの門司港駅”になった。

少し遠回りになるが、先日利用した博多の駅前ホテルに場所を変更し九州最後の寝床とする。別に今日も博多ラーメンを食べたくてやって来たのではなかった。

博多駅までの途中には東郷駅があったので、これで「東西南北」の「郷」駅が揃ったことになった。西郷駅は島原鉄道、南郷駅と北郷駅は日南線と、「東西南北」のすべての駅はこの九州にあった。“郷に入っては郷に従え”の諺のように、「東西南北」の郷がこの九州に入ったと思った。

そして、こんなに揃ったので東郷駅で小生は“意気投合”したのであった。

古賀駅の手前に福岡駅、千鳥駅の連続駅があり、女性の「福岡 千鳥」さんの名前を連想した。

しかし、福岡 千鳥さんは酒に酔っていたので、千鳥足で歩いて家に帰っていたのであった。

実在していたら教えて上げたいと思いながら、今日の終着駅である博多駅には23:01に着いた。

今日は遅い為に送迎の車はなく、博多の町を歩きながらホテルにチェックインする。

寝たのは今日も日付が変わっており、これが小生の“通常ダイヤ”になった見たいである。

宇佐駅の出来事を思い出すが、ろくに英語も離すことができず中国語は麻雀の数えしかできず、まるでダメな自分に少しばかりガツカリする。

ウサばらしの為に酒でも飲むかと思ったが、諦めて飲まずに直ぐに寝た。

今夜が九州最期の夜になると思うと、夢の中には廃止になった多くの線が復活してSLが煙を吐いて九州の隅々まで走っている様子が夢の中で見ていた。

